



## 「旭化成グループ サステナビリティレポート2023」

### 第三者検証 意見書

2023年10月25日

旭化成 株式会社

代表取締役社長 兼 社長執行役員 工藤 幸四郎 殿

一般社団法人 日本化学工業協会  
レスポンシブル・ケア検証センター長

尾崎 智



#### ■ 報告書検証の目的

本検証は、旭化成株式会社が作成した「旭化成グループサステナビリティレポート2023 (Web版)」(以後、報告書と略す)を対象として、下記の事項について化学業界の専門家として意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア(以後、RCと略す)及びサステナビリティ活動
- 4) 報告書の特徴

#### ■ 検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(支社、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性・正確性及び数値以外の記載情報の正確性について調査しました。本社での調査は、会議室とWebを併用して、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること並びに資料の提示・説明を受けることにより行いました。
- ・ 富士支社の検証は、現地にて、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性を調査しました。調査は、各業務責任者に質問すること、資料の提示・説明を受けること並びに現場を確認することにより行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

#### ■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
  - ・ 数値の算出・集計方法は、本社及び富士支社において合理的に集計されています。またデータ収集範囲のグループ全社において「環境パフォーマンスデータ収集システム」が用いられており、数値は正確にかつ効率的に集計されています。
  - ・ 調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
  - ・ 報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さについて若干指摘しましたが、現報告書ではこれらの指摘事項は修正されています。
- 3) RC及びサステナビリティ活動について
  - ・ 「中期経営計画 2024～ Be a Trailblazer (先駆者たれ)」において、「持続可能な社会への貢献」と、「持続的な企業価値向上」という二つのサステナビリティの好循環の実現を掲げて推進中で、社長は、この実現にはリーダー層がこの重要性を理解し、皆自らの言葉で、具体的な表現で、メンバーとコミュニケーションを図ることが大前提であるとトップメッセージで明言しています。その思い・決意を報告書の巻頭言としての表明していることを高く評価します。
  - ・ サステナビリティ実現に向け「サステナビリティ基本方針」を制定し、グループ横断的な体制として社長を委員長とする「サステナビリティ推進委員会」を設置、「サステナビリティ推進部」を中心に積極的な活動を展開されていることを評価します。
  - ・ 重篤労働災害の撲滅を図るため、「旭化成ライフセービング・アクション(LSA)」として4つの禁止行動を制定し継続して徹底を図るとともに、安全意識調査を行い課題の抽出と改善、「安全文化」の醸成に取り組んでいます。この地道な取り組みの着実な成果を期待しています。
  - ・ 富士支社では、研究所群と多様な製品を造る工場群が併存した中、RC共通の取組みとして「5S」と「事例解析」を重点項目として、安全風土の醸成を進めています。また「旭化成富士支社レポート」を毎年発行し、従業員、地域住民、関係行政機関等、地域社会とのコミュニケーションに努めている点を評価します。



#### 4) 報告書の特徴について

- ・ 統合報告書「旭化成レポート 2023」とは別に、Website において本報告書でRC・CSR活動の詳細について、ESG データを含め開示報告しています。
- ・ 2050 年のカーボンニュートラルを見据え、今年度の報告書では 2030 年目標「2013 年度比 30%以上の温室効果ガス排出量削減」達成に向けた具体的な対応策が示されています。

-以上-

